本庁舎建て替えに関する市民シンポジウムについて

参考資料１

１．　開催概要

市民利用や市政の情報発信スペースの整備を検討している新本庁舎低層部分や，まちの賑わいに資する場を目指す庁舎敷地内広場のあり方と隣接する市民広場との関係性について，これまでの検討状況や事例を紹介し，市民の皆さまと対話を行うことを目的として，令和元年７月 11 日（木）に本庁舎建て替えに関する市民シンポジウムを開催しました。概要は下記のとおりです。

○ 日　時　令和元年７月 11 日（木）18 時から
○ 場　所　せんだいメディアテーク１階オープンスクエア（仙台市青葉区春日町 2-1）
○ テーマ　「これからの市役所と市民広場」
○ 内　容　①郡市長あいさつ
②本庁舎建替基本計画に関する検討状況について
③仙台ラウンドテーブルでの議論について
④勾当台公園市民広場の目指すべき方向性について
⑤レクチャー「市民広場活用の事例紹介とこれからの市役所」
⑥ディスカッション
○ 出演者　ファシリテーター：　小島 博仁（株）UR リンケージ　東北支店　技術顧問
登壇者　：　増田　　聡　東北大学大学院経済学研究科教授
仙台市役所本庁舎建替基本計画検討委員会委員長
姥浦 道生　東北大学大学院工学研究科准教授
仙台市役所本庁舎建替基本計画検討委員会委員
馬場 正尊　（株）Open A 代表取締役
東北芸術工科大学デザイン工学部教授
手島 浩之　（公社）日本建築家協会東北支部宮城地域会 副地域会長
菅原 大助　仙台市財政局本庁舎建替準備室長
芝　　千紘　仙台市まちづくり政策局プロジェクト推進課長
○ 来場者数　約 130 名

前半は，本庁舎建替基本計画に関する検討状況・仙台ラウンドテーブルでの議論・勾当台公園市民広場の目指すべき方向性について説明の後，馬場氏より「市民広場活用の事例紹介とこれからの市役所」についてレクチャーが行われました。後半からは，会場からの質疑を受けつつ、登壇者によるディスカッションを行いました。

２．　登壇者の発言の要旨

シンポジウムの登壇者の発言の中から，新本庁舎整備に特に関係が深いと考えられる部分を抜粋し，３つのテーマに分類しました。

【未来の市役所本庁舎の姿】
・未来の市役所の３原則は「新しい価値を生み出す市役所」「まちに開かれている市役所」「クリエイティブな市役所」と考えられる。
・「新しい価値を生み出す市役所」は大学のサテライト授業や，ベンチャー企業の新商品発表会，市民のプレゼンテーションの場など，新しい価値を生み出すことができる空間であると良い。
・「まちに開かれている市役所」としては市役所の１階と市民広場が地上でつながっていることで，様々な新しい活動が生まれると良い。
・「クリエイティブな市役所」としては行政の施策立案がクリエイティブな活動であり，新たな発想を生み出すためにも市民と行政をつなぐための空間の工夫が用意されると良い。
・次の市役所は市役所自体が未来の仙台を予感させたり，未来の仙台を考えたり，未来の仙台自体を表現するようなマニフェストの場であるべきと考える。特に，市民や企業が利用し，行政と関係していくのはグランドレベル（１階部分）だと思う。

【仙台らしい市庁舎のあり方】
・「仙台らしさ」や「杜の都」は多くの人が定禅寺周辺をイメージすることを考えると，仙台の都心全体の回遊性を高め都心を活性化させるためには，このエリアは重要な意味を持つ。仙台らしさをどう使いながら，どう整備していくのかがポイントとなる。
・東北人は皆で理解しあいながら組織で合意を得て運営していくことが得意。本庁舎建替えにあたって，賑わいをどう創るかも検討する必要はあるが，低層部では何ができるか，自分達らしさを活かしてどのように街をつくっていくかが重要だと考える。
・官民連携は重要だが，市役所低層部でなければできないものは何か，それを官と民で一緒にやることで相乗的な効果を生むために，市は何をやるのか，民間とはどういう連携をとるのかを考えていかなければならない。

【市民広場との一体利用】
・市民広場に期待することは面白い企画を市民自らが立て，実際に活動を見せて周りの人が自由に参加し，行政に一定の影響を与えることだと思う。また，行政が考えていたことを実際に展開してみせるなど，市民広場を行政のプランニングとどのように繋げていけるのかも重要な課題。行政，NPO，新しい活動を考えている民間企業など，様々な関係者が協働して市民広場を使っていく視点が重要だと考える。
・市庁舎と市民広場のイメージを関係者が共有し，検討を一体化していく必要がある。また，整備後の運営のプロセスも一体化して検討することが重要だと考える。
・公園と市役所のグランドレベル，庁舎本体も含めて経営するということが重要と考える。都市経営といっても，市役所の存在意義が仙台という都市の価値を高めるためにあると設定すると，あの空間をどうするべきかという発想ができる。今後はコストの観点だけではなく，質・中身について検討することが重要。
・運営については大企業というイメージしかないが，小さくてもクリエイティブローカルな事業者が参入できるようにしてほしい。
・都心全体のビジョンを描くべき。一つのビジョンを描き，想像しながら，計画の段階からしっかりと事業調整をすることが重要。「勾当台エリアまちづくり事業本部」のような部署や、調整会議といったものを頻繁に開くのか，市長直轄の部署をつくるのか，どういう形であっても行政の中でも一本刺す組織を作る必要がある。
・このプロジェクトを進めるために，専門家と行政と市民のための新しい対話の場を設定すべきだと考える。複雑な事業なので専門家の知識が必要であり，空間の専門家，事業の専門家，ランドスケープの専門家，市民活動の専門家など，各専門家のレベルの高い議論をしっかりやるべき。

3．　来場者から寄せられた意見・質問の要旨

会場で，質問票やアンケートにて来場者の皆様から頂いたご意見の一部を抜粋します。

【アンケートからのご意見（抜粋）】

・新しい本庁舎はこれからの仙台をつくる場所である，という馬場氏のレクチャーにはとても共感した。
・事例紹介で取り上げられた，南池袋公園のような取組は興味深いが，どちらかというと錦町公園や西公園のような周辺の公園の将来像として参考になる。
本庁舎の広場と市民広場は，イベントの収容拠点としての活用を促進するような方向で，一体的活用を行うことは望ましい。
・馬場氏の「勝手に提案」というのはかなり面白かった。定禅寺からの緑のループは，実現したら仙台市の都市力向上は間違いなしだと思う。仙台駅前に集中した人口を分散できるいいアイディアだと思う。
・まちの課題，仙台らしさ，市民・企業とのコラボ，市民広場で行われていることが政策につながる（その逆も），民間との運営，とても大事な視点がたくさんあった。
・仙台らしさについて，他所からの見え方が興味深かった。
・都市計画的な，マクロ的な意味論のアプローチが多い。それはそれで必要な議論なのだが，それを建築的にどう回収していくのか，そのサジェスチョンが得られなかったのは残念。唯一馬場氏が現実的にどうしたらよいのかを示しながら話していたような気がする。おそらくフューチャーセンター的なものが今後の市役所的なものの核になるのだと思う。
・NPO の方々，あるいは学識経験者の方々と一般市民の間での認識の間にまだまだギャップがあると感じた。現在の市役所への来訪者の数，市民の部屋の活用状況が一般市民の市庁舎を利用する認識レベルであり，市民の認識をどう変え，イメージさせていくかが課題だと思う。シンポジウムに参加していない方々への情報発信強化も必要ではないか。
・計画はグランドレベルでのディスカッションが重視され過ぎているように感じる。市役所の基本である市役所職員の人たちが充実した仕事ができるように事務空間の質を上げることを忘れないでほしい。
・新庁舎ユーザーになる若い世代の意見を聞きたい。仙台はどうなっていきたいのか長期的視点で建ててほしい。都市経営という視点は大事だと思う。

【会場からの質問（抜粋）】

・本庁舎の一部として広場があるというより市民広場という大きな空間に本庁舎の機能があるというような解釈もアリだと思う。
・昔と違って役所に行く用事・目的が減ったのではないか。「単なる職員のオフィス」となるのは避けてほしい。
・市民広場の下にある地下駐車場も含めての一体利用なのか。また，市民広場自体の整備も庁舎のオープンと合わせて行うのか。市民広場の整備スケジュールを教えてほしい。
・庁舎や市民広場を含めて全体を民間に管理運営してもらうとなると，体力のある大企業しか参入できなくなることが想定される。
・勾当台エリアまちづくり事業本部（市長直轄）で，本庁舎，市民広場，定禅寺通まちづくりを総合的に進めてはどうか。
・市役所と市民広場はなぜ一体で計画しないのか。本日の発表も別，担当課も別。一体の利用はだれもが必要だとわかっていて別々に計画することはないのでは。

4．　シンポジウムから導かれた方向性や視点

①新本庁舎は未来の市役所の姿を表現するものとして、特に低層部を活用しながら検討することが期待されている。

②新本庁舎は行政庁舎として機能することはもとより，特に低層部においては行政と市民，企業等さまざまな関係者が一体となることで相乗的な効果を生むために取り組む場となることが期待されている。

③新本庁舎の整備にあたり，設計や運営の検討段階から専門家を交えてしっかりとした議論を行い，地区全体のイメージを共有して検討を進めていくことが大事である。